

## 上質な味と香りの早生品種候補「89-2-7」

### 〔研究のねらい〕

- ・静岡県の茶栽培面積のうち90%以上が「やぶきた」で占められています。
- ・近年、摘採期の集中化や香味の画一化等「やぶきた」偏重の弊害が顕在化しているため、収量性、品質に優れ、「やぶきた」とは早晩性の異なる品種を育成する必要があります。

### 〔研究の成果〕

- ・来歴：種子親「おくひかり」×花粉親「くりたわせ」
- ・交配年：1989年(平成元年)
- ・早晩性：「やぶきた」に比べて2日早いやや早生
- ・樹姿：中間型 ・樹勢：やや強
- ・耐寒性：赤枯れ「やや強」
- ・耐病性：炭疽病「中」、赤焼病「やや弱」、赤葉枯病「やや弱」
- ・耐虫性：クワシロカイガラムシ「中」
- ・収量性：成木「多」、幼木「中」

10a当たり収量は、「やぶきた」に比べて本場では一番茶で101%、年間で136%と多収です(図1)。山間地では一番茶が105%、年間で102%と「やぶきた」並です。

- ・品質：「極上」

総合的に「やぶきた」を上回ります。特に香気、滋味が優れ、一番茶の概評では、芳香、甘い香り、うま味と評価を得ています(図2)。



写真 「89-2-7」の一番茶

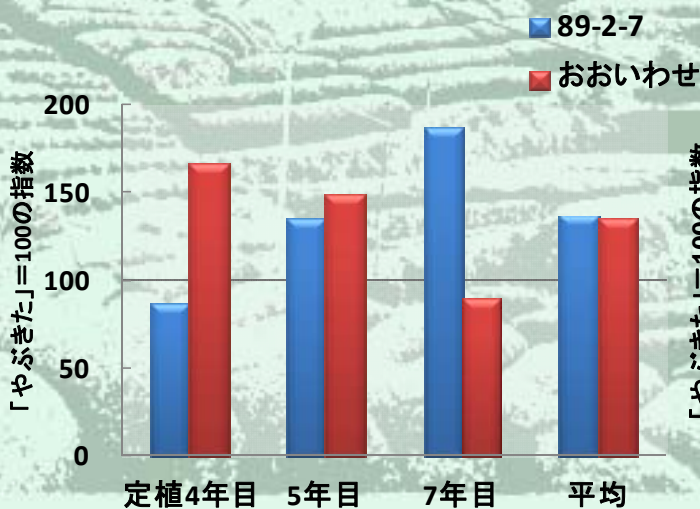


図1 10a 当たり一番茶収量  
(本場、「やぶきた」=100の指数)

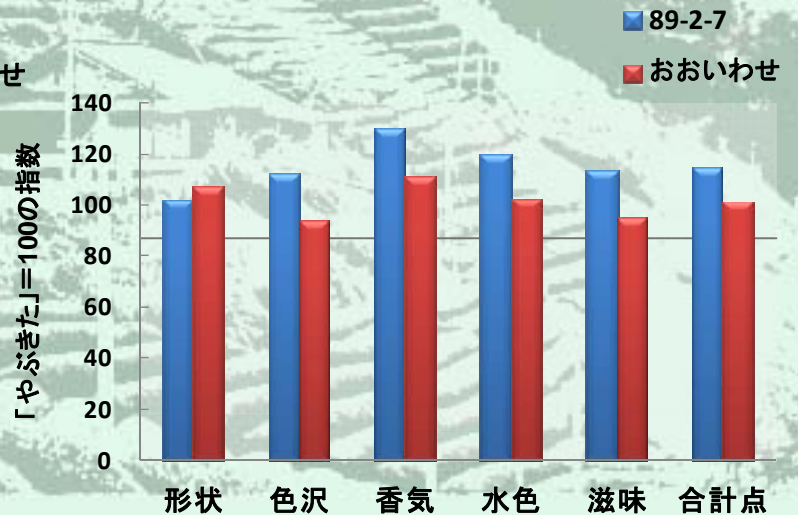


図2 一番茶の品質特性  
(本場3年平均、「やぶきた」=100の指数)